



東三  
 同正  
 其果刻至  
 女子之日記  
 東店

特別  
 入5  
 6581  
 3



ハ5  
6581  
3



# 正月十日

天氣極 朝大凍 凡所



能申到也南才二記少臨月少格中御國旅委  
故天三才寸保承中御仙合抵是未申到召臣詳列

高利

島島御控係系の換り

世如情々存分りる事と申す

成唐買りて人連り

河に如く流るるをわらわは打つて

と云ふと雨乃が如き如木の橋

雲は流るるに月を来

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

道はつらや 名 佛

と云ふと雨乃が如き如木の橋

入はり無ふ 水乃いくとく

と云ふと雨乃が如き如木の橋

ゆき野々木く 中乃く一月

と云ふと雨乃が如き如木の橋

西海 乃が如き 乃が如き

と云ふと雨乃が如き如木の橋

河に如く流るるをわらわは打つて

と云ふと雨乃が如き如木の橋

雲は流るるに月を来

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

と云ふと雨乃が如き如木の橋

道はつらや 名 佛

と云ふと雨乃が如き如木の橋

入はり無ふ 水乃いくとく

と云ふと雨乃が如き如木の橋

ゆき野々木く 中乃く一月

と云ふと雨乃が如き如木の橋

西海 乃が如き 乃が如き

と云ふと雨乃が如き如木の橋

昔々から 櫻川 々 鳴

お ぢいさんまふたののの

花火の音は 川を流すように

長年の柳をぬき替ふ

すい〜 静けさ 春は せん 夕 漳

柳の音は 川の流

と 気味の ころけり ながし 鳴る

北のしと 歌の 世の 研

廣瀬の川を ぬえ〜 流

空の 舟は 舟の 川

柳の 音は 舟の 川

川を 流す 舟の 川

柳の 音は 舟の 川

舟の 音は 舟の 川

新なる 舟の 音は 舟の 川

右 

あ  
世に信る層のあまも

物  
后より物たる味は忘れ

「西より行くくは日を宗

中流の静し流のちり物に印づく

「舟のぬき留のまの青いふ

那より平を遠く離るるたろて幾し

「長刀舟のあまのあまも

ちよあまの味をいひ出さるる

「氣味のあまのちよあま

あまの味はあまのあまのあま

「あまのあまのあまのあま

あまの味はあまのあまのあま

「あまのあまのあまのあま

あまの味はあまのあまのあま

「あまのあまのあまのあま

あまの味はあまのあまのあま

右

お集りて新編のうらみ

年山果物 送るにえり

一 ありあけの福の啓のふれ

聖にたう師をてり 祝の礼のり

一 是の世の馬のり

通て見ゆ家も徳も

勤くはてしなく

中へて 遊子 客も

右

新編のうらみ

尾張の海へて

右



出陣屋の集りて新編のうらみ  
まげの菩提寺の大徳をてり  
古へて中へて

一軒の徳女主人の物置の下の浮床青部もまた中の物を  
流すられしよよと物や一多由大忍とる家○井島  
ちよあおきまとのさかきとるけしとるけしとるけし  
○銅持平たてとの物置の物置とるけしとるけしとるけし  
のさかきとるけしとるけしとるけしとるけしとるけし  
○此の物置とるけしとるけしとるけしとるけしとるけし  
先下藤原の東林寺の○湖舟の都の物置とるけしとるけし  
物置とるけしとるけしとるけしとるけしとるけしとるけし

子飲ひ島の大船長後坊の法を方城の物置とるけしとるけし  
小の物置とるけしとるけしとるけしとるけしとるけし  
此も多進法とるけしとるけしとるけしとるけしとるけし  
海路の物置とるけしとるけしとるけしとるけしとるけし  
大の物置とるけしとるけしとるけしとるけしとるけし

木一曰 虎の照 荒の吹 赤色

物置とるけしとるけしとるけしとるけしとるけし  
おきとるけしとるけしとるけしとるけしとるけし





あはれいづかや久しき懐痛止まらざるに

式二目 天気が 雨降る

鉄のうたを佛の側の四つに 茶の葉を佛の傍に 土を  
方角の角より五層形

偶句

楊子葉を樂焼鴻乃白の如

春の如く雅氷を袖に 旅大工

此の由りぬ 店中の掃除屋掃く 大工の如きよ 旅の席

朝飯のころは 女〇天気が 毎日の如く 月夜を判るる  
暗気が 好む 提灯の如く あり 〇 針を 夜半の如く 入生  
はるの 喉を 屏風を 張る 少切の 山し せう 決る 己 刻中が  
世の 〇 鳥の 楊柳の 店を 幸ひ 〇 井の 分を 種落て  
世の 〇 鳥の 楊柳の 店を 幸ひ 〇 井の 分を 種落て  
世の 〇 鳥の 楊柳の 店を 幸ひ 〇 井の 分を 種落て

唐瀬川 流るる 水も 流るる 水も 流るる

千も 沙も 解く 山も 解く

唐瀬川



洛水今表の於るに持明用より出づる水は是より一處  
しつとせり

一 漢子 〇 弟 意 文

洛乃雲雨乃洛也其乃一之形

此形

〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形  
推其本而後其形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形  
一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形  
洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形

漢子 〇 弟 意 文

由水

〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形  
〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形

松壽人 〇

漢子 〇 弟 意 文

〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形  
〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形

右

洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形  
〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形 〇 洛水乃一之形



画成二子是は下世を成る事書つ到る所乃け申の南無と  
まへと周巻の初りをもりて成れぬを世に成りぬ

才二日

天竺徳 西の 金也

七のゆゑも起る持所の勅例を如くするはゆゑも  
故に暢ちりてを成りて成る事書つ到る所乃け申の南無と  
〇南無と成る事書つ到る所乃け申の南無と  
お願ひの成る事書つ到る所乃け申の南無と  
〇南無と成る事書つ到る所乃け申の南無と

編りて大戦りて少く成る事書つ到る所乃け申の南無と  
ゆゑも成る事書つ到る所乃け申の南無と  
〇南無と成る事書つ到る所乃け申の南無と  
二成る事書つ到る所乃け申の南無と  
〇南無と成る事書つ到る所乃け申の南無と  
しめりて成る事書つ到る所乃け申の南無と

歳日

風 長 窮 巷 糟 川 東

南嶽粉雲画出同  
疎籟久年生理客  
峯盪繁興壽新豔  
又壽雪  
年：村居竹堂春  
林表雪花朝日新  
遙嶺新霞都淑氣  
漫千秋祝聖明辰

午日又吹雪

萬歲年日風雪飄  
自千峯此降來遙  
萬氏麥葉青々茂  
象鳥款聲未尚囂  
右  
祝魯神

536F

7128

Vertical calligraphy on the left margin, likely a date or location note.

羊より吉にいつて其の悔をきて常二代を白けり物物たる  
之より馬を其の海鶴の巻取の金と云く強じり地り  
故に其の角の巻く揚を度百部柳の地を又十利し  
はま地りつけ債も百部柳の井者巻く酒を其の此の地り  
修し其の巻く月次録を巻物と云く其世より其年下を  
科書と云く其巻く日次巻物と云く送るの松の巻物  
みの地りか其巻く其巻くし其巻く油と云く其巻く其  
掛けの○相巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く

道に巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く

其の巻物

松乃白いそりて其巻く其巻く其巻く其巻く  
似加

其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く  
其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く其巻く

右

此の所より魯柳なる大木魯柳の二種あり神といふ處に奉  
祀神といふ所のありけり魯柳なる木魯柳をいふ所のあり

魯柳

魯柳の代も此の所より魯柳なり

魯柳

えりや此の所より魯柳なり

石

### 十四日

天氣晴

雨降

雛の雛と佛お例の如く一葉を著し佛の雛の雛と

菖蒲の雛降す大木入新葉の如く一葉を著し佛の雛の雛と  
此の所より魯柳なる大木魯柳の二種あり神といふ處に奉  
祀神といふ所のありけり魯柳なる木魯柳をいふ所のあり  
魯柳の代も此の所より魯柳なり  
えりや此の所より魯柳なり  
石  
此の所より魯柳なる大木魯柳の二種あり神といふ處に奉  
祀神といふ所のありけり魯柳なる木魯柳をいふ所のあり  
魯柳の代も此の所より魯柳なり  
えりや此の所より魯柳なり  
石









右

小保子有申 福島の事さういふ 喜保の想いのあつた 福子  
の地へ先達より 紀子 福子 福子 福子 福子 福子 福子 福子

元旦

東風晴渡海

萬戸千門瑞氣新

<sup>6350</sup> 福子 揮毫 呈賀 酒

齋中 含笑 更相 親

右

秋温故

喜保

川も秋のこゝろ 喜保のこゝろ 秋 右 右中

右

福子 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ  
是より月夜情 福子 福子 福子 福子 福子 福子 福子 福子  
右 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ  
代より 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ 喜保のこゝろ

あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに

木六目 ちんちん 倒り 朝方

あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに

あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに

堤村喜助揚高の神 入る

酒 油 粉 香

石 和 水 閑 水

あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに  
さかすかひらひらとふくよかに  
あまのこけしひらひらとふくよかに





高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判

高判



右 初年 卯の酉を 卯の酉の酉

卯の酉の酉の酉の酉の酉

右

卯の酉

初年 卯の酉を 卯の酉の酉

卯の酉の酉の酉

丁卯の酉の酉の酉の酉

右 卯の酉

卯の酉

高利

卯の酉の酉の酉の酉

卯の酉

卯の酉の酉の酉の酉

右

卯の酉の酉の酉

卯の酉の酉の酉の酉

右

卯の酉

卯の酉

沈むるも 良きものなるべし  
降月す 清く流るる水也  
吾も物も 吾も物も 吾も物も  
何れも 清く流るる水也  
朽れ 朽れ 朽れ 朽れ 朽れ  
軍人 軍人 軍人 軍人 軍人  
亦 亦 亦 亦 亦  
吾も物も 吾も物も 吾も物も

くわい 吾も物も 吾も物も  
深山 深山 深山 深山 深山  
二つ 二つ 二つ 二つ 二つ

石 

沈むるも 沈むるも 沈むるも  
吾も物も 吾も物も 吾も物も  
深山 深山 深山 深山 深山

石 



人への書きも拙く、物ぬき  
高き。形も、異ふ。鄙曲に  
山家をも、拙き。詩なり。子  
少き。乃、下り。乃、子。乃、子。  
詩。乃、子。乃、子。乃、子。乃、子。  
乃、子。乃、子。乃、子。乃、子。  
乃、子。乃、子。乃、子。乃、子。  
乃、子。乃、子。乃、子。乃、子。

光道  
元成  
奇興  
源政  
有申  
山行  
萬戸  
鈕二

古書如勅く解案く筆より  
乃も拙く、水も、乃も、乃も、乃も。  
乃も、乃も、乃も、乃も、乃も、乃も。  
乃も、乃も、乃も、乃も、乃も、乃も。  
乃も、乃も、乃も、乃も、乃も、乃も。  
乃も、乃も、乃も、乃も、乃も、乃も。  
乃も、乃も、乃も、乃も、乃も、乃も。  
乃も、乃も、乃も、乃も、乃も、乃も。

元成  
奇興  
源政  
似加  
有申  
岩江  
鈕二  
萬戸

2666  
5634

右

後河原守仲より山本兩より其書の俾り付金に山本より  
返りし紙類等々あり如き事也

山本兩の主紙は古書

且其書多し人々皆好む也

後河原の程よりいふこと

東山内にも前より他より取寄る候

甲仲

右

初より一日の傍に高利の御物書く〇下は守之由子  
より彼れを来りし漢紙之書も亦用るる屏風の土鹿子  
摺りの紙は世々交りし中書而よりの中とわき〇此紙書  
今より書きたる物も世々交りし御書に後方法を考へ  
申す候に申り刻々入来候に御中へお取寄をせしむるの  
候也後切又来候に又お取寄を止め候也後方〇此紙書  
出り候〇及切りの御書も亦世々交りし御書に後方〇  
此〇千角の御書の書きたる御書より御書に

お 吉の書に吉手舟の初なる

小川より古橋渡り家さし出

誰れと云ひし雨の旅人

ふらふらと云ふ中、くさのこゝろ

舟の楫の音を聞きし

舟楫をさす人、さすいこく

浪を打ちし、ぬきの舟

舟をくづつし、波之舟

右

お 吉の書に吉手舟の初なる

吉手舟に舟の音を聞きし

誰れと云ひし雨の旅人

舟の楫の音を聞きし

浪を打ちし、ぬきの舟

舟をくづつし、波之舟

右

あはるに母とすむるに

櫛 梳くくくたあすもせ

神の信る事の記と母

罪もあくひも清き 一 (痛)

右

新の月終ち御海の中入下也久日百三度を度て酒香もさ  
ゆふらり物もれたて花をさすく物成り馬之松むく

羊土神中成し×扇の二対買求あのみあかしく買つ物成り

丸ら御佛 〇井為かよくま〇松場十次よの并の首をさす

須一園と名に成る御佛を為すあまの〇神成る所の

入本置え物角ゆうけさ十利相うと持てあかしくして聖なる

〇久き字壽耕子 御中存し入本し中更の明物わわう中をさ

今あるも千地店より何也樹林を更すの道あり故物を千地店

あるも千地店より〇千地店よりして御事の事なりと〇はあ

故物をさすその事あるをせしむるも皆あなりと

大まな安堵より予は又腹痛より藤子火梅を友として  
暇ははるるのりきりすい

河州を遊するに其の母の如く始

似如

### 亦丸

天竺花 養の如

雖も此の如く神の例の如く一葉を著し一火梅を  
入るれば其の如く大なる如く其の如く又其の如く  
去るは其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

今一月の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く

其の如く

### 高利

其の如く

大なる其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

1777

其の如く

其の如く



正の月思ひ乃信乃こら強の形

サカ 叶教

正の月也田又言の例の海鳥鶴

里中

正の月也那之遊原牙之るは彼之記

此中

正の月也田乃終原も包之原中

一災

正の月也中こ隙ふりもあつた

筑後

正の月也中田又言の例節衣

曾梅

正の月也那も節衣のり鳥り

思永

正の月也隙のりも小原若

文秀

正の月也乃月入る乃る乃る

春耕

正の月也乃手細く乃中梅のり人

蒼蘭

正の月也乃却る世終一人出入

春江

正の月也乃乃の家若く乃乃の若

梅江

正の月也乃乃の言も乃乃の記

得之

正の月也乃乃の鳥物乃乃の鳥

比友

正の月也乃乃の遊記乃乃の司

小子

正の月也乃乃の終乃乃の始

見霞



玄海より電の千代を松の脂  
るのの如く少松を纏るまの如く糸  
挿しあふるのり能くさむ書  
松挿し少物如くさるのり如  
小松男のりもるのりくしう形  
取らえは挿しるのり乃少書  
るのりくし書のみさ少松如  
娘如く少代をさるのり少松如

太田 書石  
本中 十九  
ホリミ 千角  
キミマ 蒼朮  
サカイ 南敵  
サカイ 書雨  
ホリミ 梅之  
ホリミ 有半

御書たももゆい如初りのり  
あゆりももゆい如初り如  
初りのり洗ゆも小 書 書  
福記書る清い清い如柳の如  
書柳の如蘭乃角如ハニニニ  
書くし中もゆい如柳の如  
山乃りゆい如柳の如  
書くし中もゆい如柳の如

ホリミ 兩柳  
ホリミ 鈕二  
ホリミ 三島  
ホリミ 時習  
ホリミ 駮免  
ホリミ 愚遊  
ホリミ 程頓  
ホリミ 梅本

川をさす川 赤坂の川にさす  
青柳の川 剛川にさす  
新川 川にさす  
川にさす  
川にさす  
川にさす  
川にさす  
川にさす  
川にさす  
川にさす

如行  
馬泉  
軍陣  
新攻  
守白  
李明

新川 川にさす  
好川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす  
新川 川にさす

一馬  
思永  
馬紅  
蒼胤  
南敵  
森主  
松友  
梅子

雨乃物人<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>脚<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>情<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>形  
 柳<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>女<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>婦<sup>ノ</sup>御  
 志<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>好<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 柳<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>好<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 柳<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 柳<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 柳<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>

有<sup>レ</sup>中  
 楚<sup>ノ</sup>先  
 三<sup>ノ</sup>島  
 時<sup>ノ</sup>習  
 荳<sup>ノ</sup>山  
 王<sup>ノ</sup>斗  
 筧<sup>ノ</sup>美  
 料<sup>ノ</sup>被

西<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>解<sup>ノ</sup>也  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>  
 山<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>妙<sup>ノ</sup>

山<sup>ノ</sup>行  
 葛<sup>ノ</sup>江  
 楚<sup>ノ</sup>先  
 楚<sup>ノ</sup>先  
 楚<sup>ノ</sup>先  
 楚<sup>ノ</sup>先  
 楚<sup>ノ</sup>先  
 楚<sup>ノ</sup>先



春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木  
終りに 春のさか木 終りに 春のさか木

十丸  
度功  
蒼流  
春江  
南部  
梅江  
遊之  
梅子

6447

川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに  
終りに 川船中 終りに 川船中 終りに

定軍  
川船  
文司  
第一  
第一  
第一  
第一  
第一

終る己も物々しく厚氣騰  
流るるに利終る時つら  
小船清々終る時つら

有年  
西柳  
小

右

雪名〜津丸い七の底由  
山りゆすし喜洲ぬるの終  
正るゆ原る白ふ終る津  
山りゆ人肥る世も終る家

信精  
一馬  
南部

か〜山終るはあきゆ子のり松  
小 四乃ゆも〜終るゆ初るゆ  
と川ゆのりあ〜と〜ゆ終るゆ  
るのりゆゆ〜ゆゆゆ松るゆ  
るのりゆゆ〜ゆ折〜ゆ乃少雲原  
ゆ〜ゆゆゆは〜ゆゆゆゆゆゆ松  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

無終  
ゆゆ  
4町  
免  
文柄  
一馬  
馬  
山



文書大なる様々・河の東の河  
 一通り河を遊りて東の河  
 青柳を川をめぐりて  
 古柳を築物屋の祇園  
 河の東の河を遊りて東の河  
 新の河を遊りて東の河  
 古の河を遊りて東の河  
 終りの河を遊りて東の河

わんご  
 一魚  
 可憐  
 兒産  
 志塩  
 當年石  
 春の  
 高秋  
七十四  
 兔月

6769

終りの河を遊りて東の河  
 古の河を遊りて東の河  
 新の河を遊りて東の河  
 河の東の河を遊りて東の河  
 河の東の河を遊りて東の河  
 河の東の河を遊りて東の河  
 河の東の河を遊りて東の河  
 河の東の河を遊りて東の河

終りの河  
 古の河  
 新の河  
 河の東  
 河の東  
 河の東  
 河の東  
 河の東

石

キシコ  
 西東  
 梅之  
キシコ  
 春耕  
 野見  
 産中

此九柳者如个正殿旁屋口

十九

聖跡之解より数乃平子梅子

鈕二

露の池より松並より松乃谷りもの

鶴免

松よりしり松より進むおろ

魯柳

右

此下より判り記按り柳並より松並より松乃谷りもの  
是末ノ刻り込ぬ

